

# 生きる力

## SHINGON

特集

### ようこそ総本山智積院へ

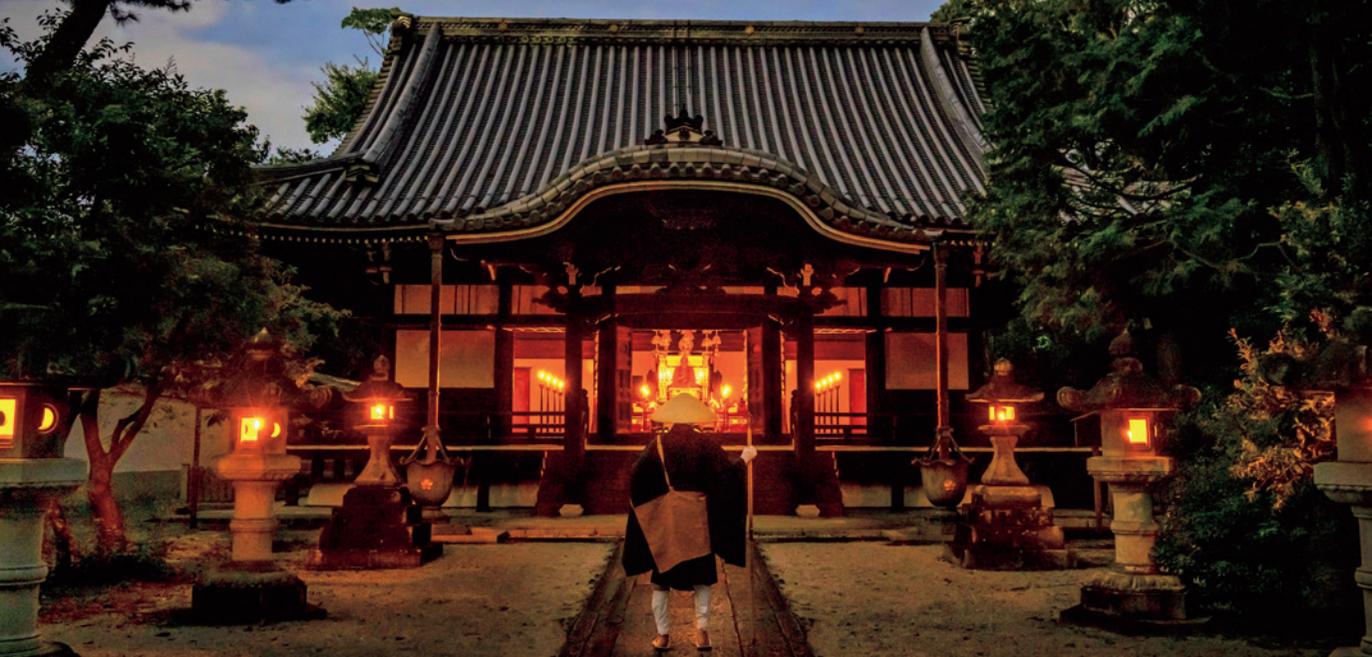
— お大師さまに祈り、お大師さまと出会う智積院参拝 —



生きる力 SHINGON

Vol. 111

# ようこそ総本山智積院へ



—お大師さまに祈り、お大師さまと出会う智積院参拝—

令和5年はお大師さまがお生まれになって1250年となる記念の年です。特別な記念法要が行われるほか、「智積院会館」では団参宿泊者限定の記念品をご用意して、皆さまのご参拝をお待ちしております。

そも水上や 根来なる 法の真清水 洛東に  
流れをたたえ 真言の 教えは深し 智積院  
(智積院讃仰和讃)

弘法大師空海（以下、お大師さま）が開かれた真言宗の深く清らかな教えは、高野の地から興教大師覚鑿（以下、興教大師）開山の根来寺を経て、この京都の東山、総本山智積院へと伝えられています。

## 弘法利生——仏法を弘め、衆生を利する——

お大師さまが生きた時代は、奈良時代から平安時代へと移る時代の転換期でした。度重なる遷都、勢力争いに関わる暗殺、敗れた人々の怨霊事件などが相次ぎ、世間は荒れました。お大師さまはこのような時代に、都の大学を離れ、山岳修行の後、仏法を求め命がけで唐へと渡りました。密教の奥義を授かったお大師さまは、師、恵果阿闍梨の「国家に奉り、天下に流布して蒼生（人々）の福を増せ」との言葉どおり、日本に戻り、鎮護国家と人々の安寧のために祈り、活動することとなります。

お大師さまの活動は仏教の流布だけに留まらず、満濃池（香川県）の修築工事や身分に関係なく庶民に開かれた学校の創設など、人々の不安を解消するようなものでした。このような確かな実績以外にも、天竺に住む龍神を勧請して雨を降らせたり、人々の前で光り輝く仏さまのお姿になったりと、現代の私たちにはわかには信じられないような奇跡的な話が多くあります。人智を超えた力を持つお大師さまは、のちに信仰の対象となっていき



智積院第二十三世鑿啓僧正の發願、第二十四世胎通僧正代の寛政元年（1789）完成の大師堂。平成13年-14年に解体修理。両狛下とも福島県いわき市出身。ご本尊の弘法大師像は、東寺御影堂の尊像を模したものとされている。

ます。高野山でご入定された今でも、諸国を巡り人々の悩みに寄り添い続けているのです。

## 五百佛山根来寺智積院

智山派では、お大師さまを「宗祖」（真言宗を開かれた祖師）、興教大師を「中興の祖」（平安末衰微していた真言宗を再興された祖師）としてお祀りしています。

興教大師は、お大師さまのもたらした真言

密教の真髓を正しく伝えることを命題とし、高野山にて教えの興隆を図りました。ところが改革中、命さえ狙われるようになったため、根来に移り、この地でその生涯を閉じます。

智積院は、もともと興教大師の開かれた根来寺の中に建てられたお寺です。根来寺は興教大師の教えを伝え、真言宗の教学と修法の研鑽を積む道場として多くの学僧が学び、隆盛を極めます。智積院はその中で修学指導者である「学頭」が住むお寺でした。

天正十三年（一五八五）、根来寺の勢力を恐れた豊臣秀吉により焼き討ちに遭い、一山は灰燼に帰します。時の学頭職であった玄宥僧正は、弟子たちとともに秀吉の迫害を逃れながら居を転々としてます。秀吉没後は徳川家康より篤い帰依を受け、慶長六年（一六〇二）、京都東山の地に玄宥僧正を中興第一世として智積院の再興を果たします。

その後、第三世日誉僧正は秀吉が遺児・鶴松の菩提を弔うために建立した「祥雲寺」を家康より下賜されます。智積院に伝わる、長谷川等伯一門の国宝金壁障壁画は、この祥雲寺を飾っていたものです。

## 幾多の苦難を乗り越えて

智積院は歴史ある名刹ですが、残念ながら度重なる火災などの被害によって、多くの古

い建築物や什物が失われました。家康をもつてして「都で一番の寺であり、つまりは日本で一番の寺である」といわしめた祥雲寺は、現在、名勝庭園のある講堂の基礎下に遺構を残すばかりです。

旧祥雲寺の建物は天和二年（二六八二）七月十三日の大火によって、そのほとんどを焼失します。現在、明王殿にお祀りされている不動明王は、この大火中、当時学僧であった第十三世快存僧正が命がけで運び出したと伝えられている根来伝来の尊像です。この火災で唯一残った勸学院も明治二年（一八六九）十月四日、土佐藩の弾薬庫として使用されていた際、爆発炎上し烏有に帰します。



智積院金堂は、明治15年の焼失より約1世紀を経て昭和50年再建。令和3年に修復事業が完了した。扁額は第五十九世秋山祐雅猊下。昭和38年の就任時に智積院会館建立、金堂再建を強く誓われた。



智積院の四季の風景。梅は好文木ともいい、学山にふさわしい木といえるでしょう。境内の草花についてはP.16～P.17もご参照ください。

焼き、障壁画も十六面を焼失します。この時も、僧侶や近隣の人々が火中の宝物や障壁画を運び出したと伝わっています。

智山派の悲願ともいえる智積院の復興は、歴代化主のもと、昭和三十三年（一九五八）に宸殿、昭和四十一年（一九六六）に智積院会館、特には、昭和五十年（一九七五）に宗祖弘法大師ご誕生千二百年記念事業として金堂を落慶。昭和五十五年（一九八〇）には明治期に収公された境内地を建物（現宗務庁）を含め

京都府から取得します。平成七年（一九九五）に講堂を建立して、山容を整えた智積院ですが、復興に尽力された先師、檀信徒の浄行に唯々感服するばかりです。

### 報恩謝徳——五十年に一度の勝縁——

令和五年は、宗祖弘法大師が誕生されて千二百五十年という節目の年を迎えます。お大師さまの教えを受け継ぐ、私たち真言智山派では、宗派を挙げて報恩謝徳のために

「宗祖弘法大師ご誕生千二百五十年記念事業」に取り組んでおり、智積院においては築地塀修復、金堂補修事業、展示収蔵庫「宝物館」の建設が完了しています。

慶讃法要関係は、令和四年十月五日に行われた開白法要を皮切りに、全国各地の代表の僧侶が、総本山にてリレー方式で法要をお勤めされました。これに合わせて団参を企画した寺院もあり、五十年に一度の盛儀を参拝し、清秋の京都を楽しまれた方も多かったようです。

令和五年は、本誌裏表紙のご案内のとおり、四月には御詠歌の全国奉詠大会、五月は大法要を行い、六月十五日の「青葉まつり」をもって結願となります。新緑に潤うこの頃の境内は、桔梗や紫陽花も見頃を迎え、いのちの力強さを感じることができるといえる季節です。

お大師さまをはじめ、教えを伝えてくださった先師、支えてくださった全国の檀信徒の御恩に報いるためにもぜひお参りください。手を合わせ、「南無大師遍照金剛」と一心にお唱えするとき、お大師さまが現れ、同行二人を体現すること間違いありません。皆さまの日々がお大師さまとともにありますよう。

（智山教化センター所員／島玄隆）

さらに明治十五年（一八八二）二月十日には金堂を火災で焼失。ご本尊大日如来（伝恵心僧都源信作）、不動明王（伝智証大師作）、阿弥陀如来（伝運慶作）を焼失します。また、明治政府の寺社領の上知（地）令により、境内地の三分の一と寺領を失い、まさに衰亡の危機に立たされます。

歴代の智積院化主（住職）のもと復興の道を歩む智積院でしたが、昭和二十二年（一九四七）五月十七日、再び火災に見舞われます。本堂、宸殿が全焼。庫裏、唐門、書院の一部を

# 音聲 説法

## 今日の法語

### 「音聲説法」

おんじょうせつぽう

あおきしじん  
青木至人

(千葉県匝瑳市 見徳寺)

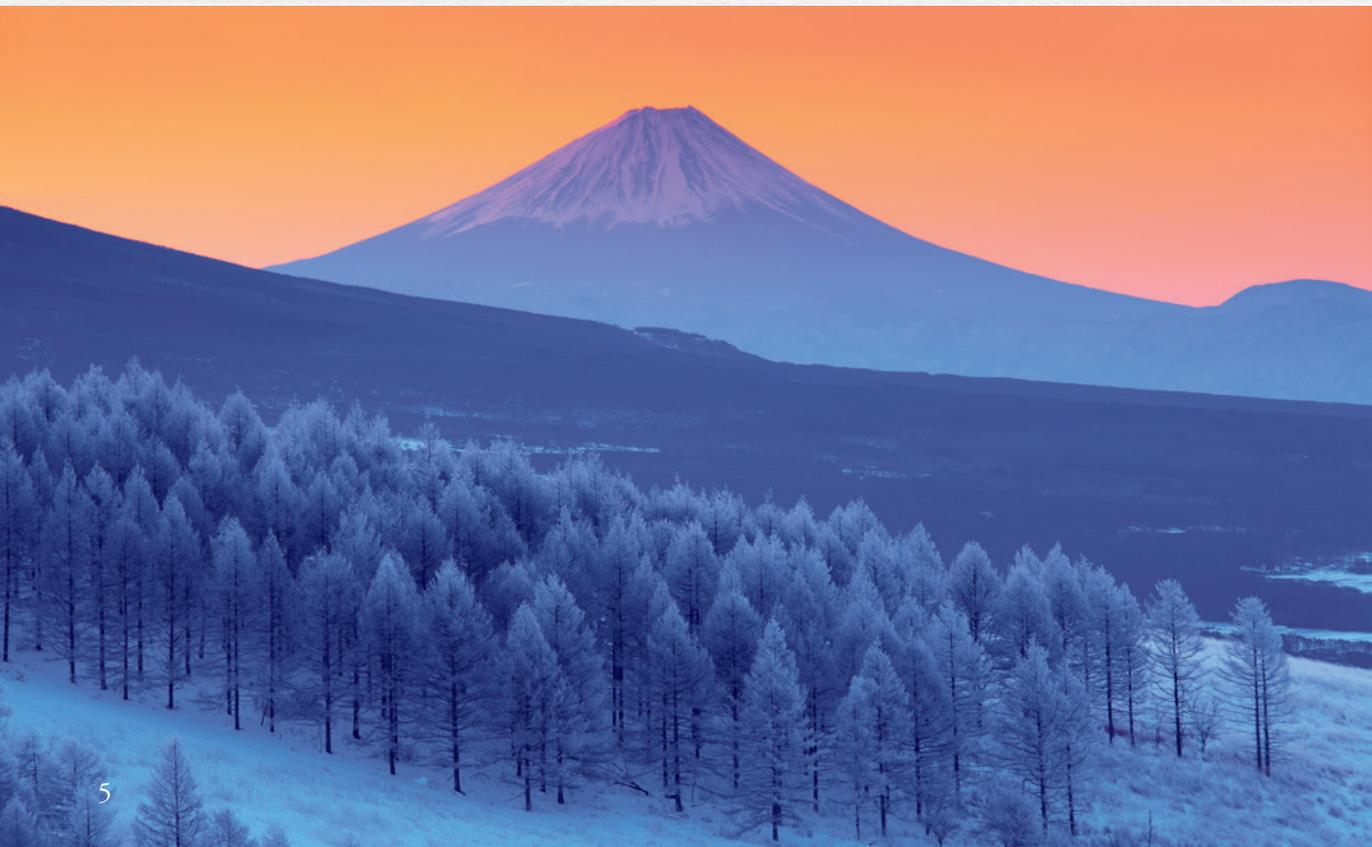
真言宗の根本仏である大日如来のさとりは、宇宙の真理そのものであり、常に私たち衆生に向けて教化されています。

菩提心をもつて心を寄せれば、たとえば川のせせらぎも風が木立を吹き抜ける音も仏の説法であるのです。音や声を聴かせるだけでさとりの世界へ導くことを、音聲（声）説法といいます。私たち真言僧侶が唱える声明は、まさにそれにあたります。

聴くものに語らずとも教えを説く。そのような音聲説法たる声明を追い求めるべく、私たちは日々精進しています。声は瞬間で消えてしましますが、だからこそ、その瞬間に心をのせることが肝要です。

みなさまが心に安らぎをもって仏さまの教えに耳を傾け、生きる力を授かれますようにご祈念いたします。

合掌





# 成田山眞久寺

北海道朔北七福神霊場 第一番

北海道三十六不動尊霊場 第一番

北海道八十八ヶ所霊場 第一番・第二番

北海道第二の都市、旭川。旭川は内陸に位置するため夏と冬の寒暖差は五十度を超えるといえます。明治三十五年（一九〇二）には観測史上最低のマイナス四十一度を記録し、今でも冬はマイナス二十度を下回ります。現在では文明の発展により寒さを凌ぐ手立てが多くありますが、明治時代の幕開けとともに始まった北海道開拓の時代、いまだ人の手が入っていない大地にたどり着いた人々は、どのようにその寒さを凌いでいたのでしょうか。

取材に訪れたのは、冬とは真逆の夏の時期で、爽やかな風と赤とんぼが、一足早い秋の訪れを感じさせてくれました。眞久寺は、旭川駅からほど近い市街地に位置しています。北海道の他の都市と同様に、碁盤の目のように整備された道を進むと、朱色が鮮やかな大きな本堂が目飛び込んできます。左右の仁王尊に守られた山門をくぐると、そこが眞久寺です。

## 北海道開教の拠点として

明治二年（一八六九）、政府は北海道の本格的な開拓に着手します。明治二十四年（一八九二）には後に旭川市とな



朱色の彩色が鮮やかな本堂は、北国の大雪にも耐える剛健さが感じられます。



智山寺院探訪スライドショー

掲載しきれなかった写真や見どころを動画で紹介しています

る地に屯田兵が入植し、これまで斧が入ること  
とがなかった鬱蒼とした原生林を切り開いて  
いくこととなります。

そのようななか、増えゆく入植者を見越し  
た智山派の前身である当時の新義真言宗の総  
本山によって、あるひとりの僧侶が北海道常  
在布教師に任命されます。背に不動明王像を  
背負い、開拓まもない旭川へとたどり着いた

のが、後に眞久寺初代住職となる久志卓動師  
でした。時に明治二十五年（一八九二）、いま  
でこそ豪壮な本堂を構える眞久寺ですが、そ  
の始まりはとても小さな草庵だったそうです。

入植当初、現在の旭川駅の近くに、眞久寺  
の前身となる新義本山根来別院を構えた卓動  
師は精力的に活動します。明治二十四年から  
始まった旭川の都市計画に、当初寺院建設予

定地はありませんでした。しかし、人心の安  
定のためには寺院という存在が欠かせないと  
考えた卓動師は、政府にその必要性を訴えま  
す。北海道長官に直訴するために、札幌まで  
何度も通いました。当時は旭川まで鉄道が開  
通しておらず、最寄りの滝川駅まで往復百キ  
ロの道のりを歩いたといわれています。そして、つ  
いにはその嘆願がみとめられ、現在の位置に



①ご本尊の不動明王。開創当時のご本尊は現在秘仏。

②胎蔵曼荼羅 ③金剛界曼荼羅

一体一体の尊像が精緻に彫られた立体曼荼羅。その尊容たるやまさに圧巻の一言です。



- ④北海道八十八ヶ所霊場第一番のご本尊でもある釈迦如来。
- ⑤仁王門。仁王像は樹齢450年を超えるヒノキの一木造り。
- ⑥京都頂法寺ゆかりの六角堂。
- ⑦左：住職の久志卓世師 能筆家であるとともに指導師範として御詠歌にも力を入れています。右：副住職の久志卓豊師 寺院活性化のためにさまざまな取り組みを行っています。

寺院を建立することとなりました。このとき与えられた用地は他宗の寺院にも分け与え、眞久寺だけではなく、浄土宗や曹洞宗といった五つの宗派の寺院が現在の区画ごとに建立されました。

建立された眞久寺は、根室の清隆寺とともに当時の新義真言宗の北海道開教の拠点となります。多くの僧がその拠点を足がかりに道内各地に向いては、新たな寺院を建立することとなります。

眞久寺は開教の拠点としてだけではなく、華道普及の拠点としても役割を果たします。境内にある六角堂は、いけばな発祥の地とされる京都頂法寺（六角堂）ゆかりの堂宇であり、頂法寺の如意輪観音が分身安置されています。ここ眞久寺に六角堂が建立された由縁は、華道家元池坊による華道普及の拠点とされたためです。現在でも、九月十八日の例大祭には如意輪観世音菩薩の御開帳にあわせ、池坊の華道家によって華が生けられています。

旭川を含む上川地方に入植した人々に寄り添うとともに、北海道開教の中心的な役割を果たした眞久寺ですが、昭和三十五年に心なき者の放火により本堂を焼失します。このときの火災は眞久寺だけではなく、軒を連ねる五ヶ寺すべてを焼き払ったといえます。奇跡的に焼失を免れた本尊不動明王とともに本堂が再建されたのは、三年後のことでした。

現在の本堂は平成八年になってから再度建て直されたものであり、火災にあった本堂を模した様相で建立されました。

## 莊嚴な諸仏に見守られ

本堂に入ると、中央の須弥壇には不動明王が坐しています。卓動師が背負った不動明王像は秘仏となり、現在、直接手を合わせることはできないものは、総本山智積院第五十九世秋山祐雅猯下により開眼供養された不動明王像です。

不動明王の坐す須弥壇の両脇には、ひとときわ目を惹く立体曼荼羅が祀られています。大人三人分の高さはあろうかという大きな曼荼



### ACCESS アクセス

#### 成田山 眞久寺

〒070-0035 北海道旭川市5条通4丁目325

車：道央自動車道 旭川鷹栖ICから約10分

電車：JR北海道 旭川駅から徒歩約15分

## 目次

特集 ようこそ総本山智積院へ	2
今日の法語（青木至人）	5
智山寺院探訪 成田山眞久寺	6
お大師さまとご信仰（田村宗英）	10
梵字よもやま話（小峰智行）	11
図解・仏教ガイド 「マンガでわかる十三仏㊟」（漫画・悟東あすか）	12
御詠歌を、聴いてみよう、見てみよう（平川真海）	14
日本の四季を切り取る十七文字（星野高士）	15
総本山の便りをお知らせします	16
ニンゲンのつくり方（中嶋亮順）	18
ごくららくご（三遊亭竜楽）	19
知っておきたい仏事 Q&A	20
読者アンケートから・おしらせ・編集後記	22
真言宗智山派出版物のご案内	23
僧侶と学ぶ仏像鑑賞の伊呂波（池田英真）	24
十巻章—真言宗の教えを紐解く—（駒井信勝）	26
「ウェルビーイング」心豊かに生きる（渡邊淳司）	28
花に聞く 仏に聞く（佐々木隆元）	29
私のお大師さま ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko（内藤理恵子）	30
十善戒と生きる力（佐竹隆信）	31

## 連綿と続く寄り添いの精神

住職の久志卓世師は、「毎日の勤行で檀信

羅は、一つひとつの尊像が精緻に彫られてい  
 ます。この曼荼羅は、僧でもある仏師服部俊  
 慶師が、自身の修行のために十六年かけて  
 彫ったもので、現在の本堂建立の際に納めた  
 といえます。立体的に尊像を彫刻した曼荼羅  
 は全国的にも珍しく、初めて制作されたの  
 が、ここ眞久寺のものだそうです。

徒の皆さまの無病息災を祈念しています。ご  
 真言をお唱えし、お不動さまに見守られてい  
 ることを実感していただきたいと思います」と話し  
 ます。副住職の久志卓世師が「檀信徒の皆さ  
 まに寄り添い、地域の人々が足を運びたくな  
 る寺院を目指しています」と語るように、初  
 代卓動師から途切れることなく続く、地域へ  
 の寄り添いの精神が確かに感じられました。

（智山教化センター所員／中嶋亮順

撮影／小川洋）

表紙

 霧氷のハルニレの木  
 北海道


豊頃町の冬は厳しい。それに  
 加え周りに遮るものがない環境  
 で150年もの間、独り立ち続け  
 ている。季節風が一旦おさま  
 り発生した夜霧で、見事な姿を  
 遂げる。まさしく枯れ木に花で  
 ある。日々の精進が、いつでも  
 開花する機会を与えられるのだ。

P5

 朝の霧氷のカラマツ林と富士山  
 長野県


凛と張りつめた朝の霧ヶ  
 峰。遥かに富士が、ご来光に  
 染まる直前の姿で佇む。今朝  
 はどんな色に染まっていくの  
 か。撮影する側は臨機応変な  
 対応が必須。秒単位で状況は  
 変わる。人生も同様に一刻を  
 大切にすべきである。

撮影・解説／岡田光司

# 宗祖弘法大師ご誕生1250年慶讃事業 日程のご案内

## ◆慶讃法要

- 令和5年 5月16日(火) 10:00～ 二箇法要付き大般若法要  
5月17日(水) 10:00～ 二箇法要  
5月18日(木) 10:00～ 大曼荼羅供法要  
6月15日(木) 10:00～ (結願法要)両祖大師誕生会「青葉まつり」

○上記の法要会場は全て総本山智積院金堂となります。(人数制限により金堂内で参拜ができない場合もございます。)

## ◆全国奉詠大会(於：総本山智積院) 令和5年4月11日(火)・12日(水)両日とも12:30開会

## ◆総本山善通寺御誕生記念大法会(於：総本山善通寺) 令和5年4月27日(木) 13:00～

## 【お問い合わせ先】

お問い合わせは下記までご連絡ください。

○真言宗智山派宗務庁 TEL 075-541-5361(代)

最新情報はホームページをご覧ください。

<https://chisan.or.jp/celebration/>



## 【ご宿泊先】

ご宿泊の際は宿坊「智積院会館」をぜひご利用ください。

○宿泊 信徒課 TEL 075-541-5363

<https://chisan.or.jp/lodging/>



## 京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964

TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364

写経のついで

毎月21日 13時より

於 智積院金堂地下ホール

(納経料千円・要事前申込定員50名)

智積院阿字観会

毎月12日

14時より受付13時30分より

※8月と12月は8日

於 智積院金堂地下ホール

(参加灯明料五百円・

要事前申込定員20名)

宿坊 智積院会館

一泊朝食付きプラン

8,300円から

(宿泊税・消費税込)

夕食別途3,300円から消費税込

ご予約・お問い合わせ

TEL 075-541-5363

・JR 京都駅よりバス約10分

・京阪電車七条駅より徒歩約10分

※ご宿泊のご予約は、6ヶ月前の1日

より開始いたします。令和4年11月

現在、令和5年5月までのご予約を

受け付けております。

## 東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8

TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

愛宕薬師ご縁日(毎月8日)

※8日が土日祝の際は第一金曜日

・大護摩供法要 12時より

・写経会(納経料千円) 14時より

12月8日(木)

1月10日(火)

※新春大護摩供法要 11時30分より

2月8日(水)

納大護摩供法要

12月16日(金) 15時より

於 本堂

やすらぎ寄席

毎月第3木曜日 18時30分より

於 本堂(木戸銭千五百円)

12月15日 談志一門会

1月19日 談志一門会

2月16日 三遊亭

真福寺阿字観会

15時より

於 本堂無料・要事前申込 定員10名

2月28日(火)

※12月・1月は開催しません。

Instagram



総本山智積院



宿坊智積院会館

Facebook



総本山智積院

※ご案内の行事は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、延期または中止となる可能性があります。参加を希望する際は、必ず、記載の連絡先へお問い合わせください。